

実験経済学の講義を理解するために、読んで欲しい本を紹介します。

### <ミクロ経済学の本>

実験経済学の講義は、ミクロ経済学を前提に講義をします。ミクロ経済学をある程度理解していると講義の内容が、よく理解できます。

- ・「ミクロ経済学の基礎」小川 光、 家森 信善（中央経済社）  
どうしてもミクロ経済学が好きになれない人に読んで欲しい 1 冊です。ミクロ経済学に抵抗のない人には、簡単すぎて不向きです。
- ・「入門ミクロ経済学」井堀 利宏（新世社）  
ミクロ経済学の初心者向けです。この本が理解できない時は、小川&家森「ミクロ経済学の基礎」から勉強してください。この本が理解できれば、都市経済学の講義は十分理解できます。
- ・「ミクロ経済学 Expressway」八田達夫（東洋経済新報社）  
経済政策問題への対応まで意識した内容になっています。井堀「入門ミクロ経済学」が読みにくいと感じた人は、こちらの本で学んでみてください。制度設計に興味ある人は、こちらの本がお勧めです。

### <実験経済学の本>

実験経済学の講義を理解するための本です。ミクロ経済学やマクロ経済学をある程度理解できている人は、これ以降の本を読んでください。

- ・「実験ミクロ経済学」小川一仁・川越敏司・佐々木俊一郎（東洋経済新報社）
- ・「実験マクロ経済学」川越敏司・小川一仁・佐々木俊一郎（東洋経済新報社）  
どちらの本も馴染みのある経済理論を説明して、その理論を実験する際の実験設計について解説しています。実験経済学を実践から学べる本です。
- ・「科学哲学から見た実験経済学」 Francesco Guala （原著）川越敏司 （翻訳）（日本経済評論社）  
実験経済学における実験手法について詳細に説明している本です。実験経済学講義のテキスト：Friedman & Sunder（1994）“Experimental Methods -A Primer for Economists-”と一緒に読むと理解が深まります。

### <実験経済学を理解するための本>

実験経済学の背景や周辺を理解するための本です。講義でもたくさん本を紹介しますが、代表的な 2 冊をあげておきます。

- ・「幼児教育の経済学」 James J. Heckman（原著）古草秀子（翻訳）（東洋経済新報社）  
就学前教育の効果は、社会実験により明らかになっているが、この実験や効果測定に関する議論と Heckman の反論からなっている。教育経済学は無論のこと、アカデミックな議論が学べる本である。
- ・「マシュマロ・テストー成功する子・しない子」 Walter Mischel（原著）柴田裕之（翻訳）（ハヤカワ・ノンフィクション文庫）  
マシュマロを我慢できるかという実験結果が、子供たちの将来の年収に相関します。この実験から子どもたちの教育の制度設計を考えることができる本です。